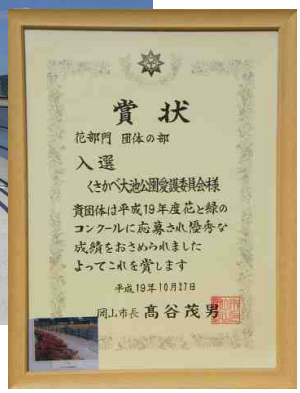
くさかべ大池公園だより＆ふるさと再発見

おおいけ

2008.1.1.(平成20年)　第16号

発行　くさかべ大池公園愛護委員会

くさかべ大池公園だより



岡山市の花と緑のコンクールに入選

くさかべ大池公園の遊歩道のコスモスとマリーゴールドの花畑けが平成１９年度花と緑のコンクールで入選しました。そして１０月２７日に岡山市浦安総合公園で開催された第４２回岡山市緑化推進大会で高谷市長から賞状が授与されました。皆さんに猛暑の中を草取りや草刈りなど、丹精こめて育てて頂いたお陰です。遊歩道を散歩する皆さんにも好評でした。有難うございました。

レスト広場に掲示板

奥池のレスト広場に掲示板が建ちました。掲示板は釣り糸やゴミの持ち帰りのお願いと愛護会と公園に訪れる皆さんとの交流の広場として活用することにしています。

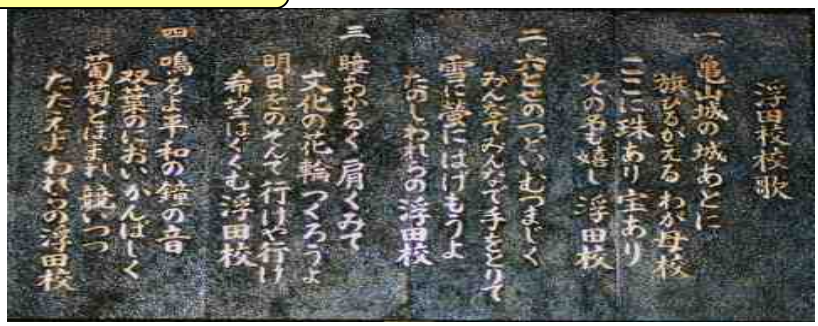
子の年の連山の景初明かり
ユニセフの手を差しのべて去年今年
ポイ捨てのなきぞ美し玉の春
森　冬至生

大池のヒシの実採り

大池のヒシ(菱)は３０年ぐらい前に草魚の放流によって絶滅していました。

一昨年頃から復活の兆しがありましたが、今年は直径が１０メートル位の菱の浮島が２つ出現しました。秋も深まった10月中頃、ボートに乗って菱の実を採り、塩ゆでにして、固い殻を剪定ハサミで切って食べてみましたが、おやつ代わりに食べていた頃の懐かしい味が蘇ってきました。

少年時代の思い出


浮田校校歌

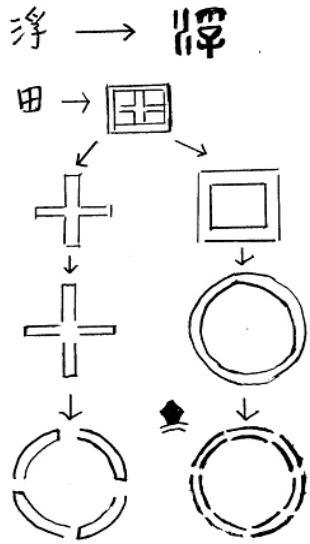
一 亀山城の城あとに
旗ひるがえる わが母校
ここに珠あり 宝あり
その名も嬉し 浮田校

二 六とせのつどい むつまじく
みんなでみんなで手をとりて
雪に愛にはげもうよ
たのしわれらの浮田校

三 瞳あかるく 肩くみて
文化の花輪 つくろうよ
明日をのぞんで 行けや行け
希望はるかも浮田校

四 鳴るよ平和の鐘の音
双葉のいおい かんばしく
葡萄とほまれ 誇りつつ
たたえよ われらの浮田校

浮田小学校の校章は亀かと思っていた？



先日、浮田小学校の多田校長先生から、浮田小の校章の意味を聞かれ、浮田と亀でしょうと答えたが、突起物が７つあると云われ、改めてみると亀にしては多すぎる。小学校入学から６０余年、亀と思い込み、今日にいたった訳である。学校には校章に関する文献は残ってはないとのこと、図書館などで他校の記念誌などを見たが、校章の解説はどこにもなかった。校章の図柄をよく見ると浮田と思える。

突起物は万年筆のペン先ではないか。筆記用具の変遷を見ると毛筆から鉛筆（江戸時代）さらに万年筆（明治時代）で当時の文化の象徴であったと思う。ペン先は東京では慶応大学、岡山では岡山東商高が採用している。

では突起物の７つはどうだろうか。７とか８は縁起のよい数字で、七曜、七色、七道、七つの海などといろいろあるが、学校は明治２５年、砂場の草壁学校を前身にして浮田に設立されたが、その２年前の明治２３年に小学校教則大綱が発せられ、教育方針と教科がそれぞれ７つ示されている。

（教育方針）	（教　科）
孝 悌……親に孝行で兄弟仲がよいこと	修身
友 愛……友人に対する親愛の情	読書、作文、習字
仁 愛……めぐみいつくしむこと	算術
信 実……まじめで偽りがないこと、正直なまごころ	地理
礼 教……つつしみ　うやまうこと	歴史
義 勇……忠義と勇気、正義の心から発する勇気	理科
恭 倹……人に対して、うやまうこと	補修科……体操、図画、唱歌、裁縫

亀山城の亀でもない、宇喜多家の家紋、旗印でもない、校歌の三番にある文化の花輪と思われる。偏見と独断で勝手に推理しましたが、新年の初夢とお許しいただきたい。（羽原勝也）

ふるさと再発見

山陽線の赤レンガのアーチ橋は近代化遺産

山陽線の砂川鉄橋から南に谷尻、そして草ケ部の青葉団地の南の端の「山の端開きょ」までの約２kmを線路に沿って歩いてみると、約１００メートル間隔で、線路を横断する水路や鉄橋があります。なか

でも浮田橋の手前の県道沿いの赤レンガのアーチ橋(橋梁)は、１２０年前積まれたままの美しい姿を今でも保っていて、谷尻では１号、２号，３号と親しまれて呼ばれています。

また砂川鉄橋の瀬戸よりにも、２つのアーチ橋があって、県道上から眺めることができます。

谷尻の赤レンガのアーチ橋

赤レンガのアーチトンネルに入ると、大正１３年の複線化工事で拡張された下り線の部分はコンクリートで継ぎ足されているのが判りますが、他の橋梁でも赤レンガの橋脚がそのまま残っています。

ちなみに群馬から長野に山越えする碓氷峠の明治２６年に建設されたアプト式鉄道の赤レンガで築かれた橋梁(カルバート)は、国の重要文化財に指定されて観光スポットになっています。岡山県内でも山陽線の三石地区にも赤レンガのアーチ橋が残っていて、平成１７年に岡山県教育委員会が刊行した「岡山県の近代化遺産」にも掲載されていますが、この浮田橋のたもとの五つの赤レンガのアーチ橋も明治の文明開化の遺産ではないでしょうか。

ふるさとの観光スポットの一つとしてクローズアップしたいものです。

山陽鉄道の建設の歴史

ＪＲ山陽線は今から約１２０年前の明治２４年３月(1890)に神戸から岡山までの８９km.が開通しました。その歴史をたどってみると、山陽線は児島湾の開拓や柵原鉱山などで知られた関西財界の藤田伝三郎が発起人となって設立された山陽鉄道株式会社によって、神戸から下関まで敷設されましたが、明治３９年には国に買収されて国営鉄道となって、明治４２年には山陽線と改称され、大正１３年には複線化の工事が行われています。

上郡～岡山間が電化されたのは昭和３５年ですが、それまでは蒸気機関車が煙を吐きながら客車や貨物列車を牽引していました。

そして山陽鉄道が開通した当時は、客車と貨物車の混合７両編成の列車が一日に約６往復、客車一両の定員は３０名で客車の暖房は火鉢、灯りは灯油ランプであったとのことですが、神戸まで馬車で急いでも３日はかかっていたのが、約５時間で旅行できるという驚異的な出来事でした。

青葉団地の南端の「山の開渠」鉄橋

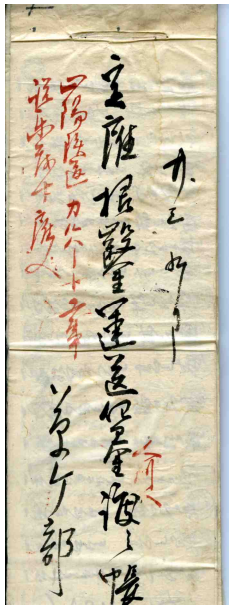
農民による反対運動

山陽鉄道は、当初は今の赤穂線のルート、赤穂から片上～西大寺～岡山へのルートが計画されたが、蒸気機関車の煤で塩が黒くなるからとか、それまでの高瀬舟と内航船によって栄えてきた片上や西大寺などの港町がさびれる。水田がつぶれる、水路や農道が分断されて牛が驚くなどで住民の猛反対にあって、上郡から三石トンネルを抜けて三石～和気の北ルートになりました。また瀬戸からは観音寺を通って東岡山に抜けるルートが計画されていたが、観音寺に有力者がいて猛反対したために、瀬戸から南に進路を変更して砂川鉄橋を渡ることになったそうです。しかし谷尻では大地主が疲弊していたため田地を売ってしまったという話や、草ケ部でも青葉団地の西の法追(ホウエイ)を抜ける計画があったとのことですが、結局は沼の忠霊塔のある東尺藤の山裾を大回りして沼の茶屋を抜けて、進路を西に戻すという今のルートになったようです。また、大正の複線化の工事のときか、砂川鉄橋の橋脚は難工事でしまいには潜水夫が潜って掘ったそうです。

戦後に実施された農地改革までは、小作人制度によって、多くの人が地主から水田を借りて耕作して

いましたので、農作業に困ると反対しても阻止できなかったのかもしれません。

カルバート工事で汗を流した村人



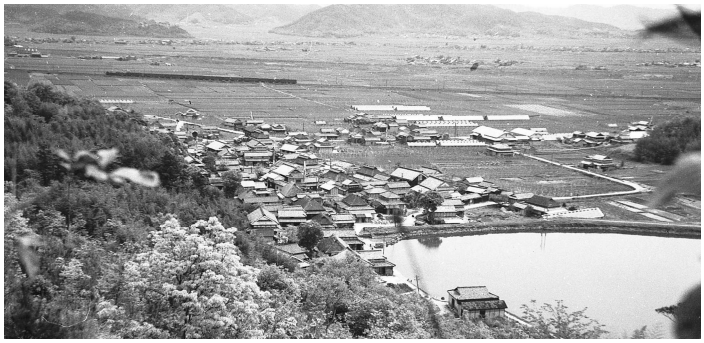
明治２３年９月「山陽鉄道カルハート工事　定雇根鑿運送賃金渡之帳　草ケ部」などと書かれた和紙の帳面には、綱引き、土堀、バラスの運搬などで働いた人の名前と日当が詳細に書かれていて、私どもの祖父や祖祖父などが、綱引き(測量)や土運びなどで汗を流したことが記録されています。

この帳面を記載したのは嘉永５年(1853)年生まれの草ケ部の中西重次郎で当事３６才でしたが、上道町史によると、前年の明治２２年６月に新しく合併して誕生した浮田村の初代の村議に選出されています。

カルバート工事とは土木工事の専門用語で、線路や道路の建設によって分断される水路や道路の底に暗渠を埋めたり橋を架ける工事のことですが、「山陽鉄道カルハート工事」と朱書されていることは、明治初期の文明開化の鉄道建設には、先進国のアメリカから多くの技師を招いていますので、英語がそのまま使われていたものと思われます。

この帳面には明治２３年の８月から９月の猛暑の中、５号から９号工区で綱引き（測量)、掘削、バラスの運搬などで雇われた人の名前と賃金が詳細に記帳されていて、賃金は１６銭８厘が支払われています。明治 23 年の米の相場を調べてみると米一俵が２円、米一升が 5 銭とすると 3 升買える程のお金ですが、今の時代に換算すると、米一俵が１万６千円としても一升が４００円、約１２００円の日当ですが、当時としては貴重な現金収入であったのではないでしょうか。

線路の盛り土はどこから運んだか



草ケ部沖を走る山陽線の貨物列車　昭和３１年頃撮影

谷尻や草ケ部でも、金に困っていたので土を売ったという田畑の話が残っていますが、砂川鉄橋から草ケ部を通り抜けて沼までの約２km の線路の盛土やバラスは、どのようにして運んだのでしょうか。

「土運搬引合台帳」には、三枚一車、四駄などと記入されていることから、線路の両脇に掘られ用水の残土や、近くの田や畑の土は人夫がモッコ(荒縄で編んだ篭)をオウコ（棒）で担いで運び、また向山の東の山裾を崩して採取した土砂やバラスなどは、竹で編んだカゴに盛って荷車に積んで、牛か馬で引っ張って運んだのではないでしょうか。また谷尻では砂川土手でトロッコを押していた女の人が事故で亡くなったと云う悲しい話も聞きました。

編集後記

新年おめでとうございます。山陽鉄道の開通にまつわる話はまだまだ残されていると思いますが、残念ながら多くは聞かれませんでした。皆さんからのご投稿をお待ちしています。

年末の大池には 100 羽以上の野鴨が羽を休めていました、向山や小廻山の紅葉を眺めながらのウォーキングは快適です。皆さん一緒に歩きませんか。（中西）

連絡先　　くさかべ大池公園愛護委員会事務局
岡山市草ケ部１９６　中西　厚方　電話 086-297-5887
E-mail　nakanishi@kne.biglobe.ne.jp　　http://www7a.biglobe.ne.jp/~nakanishi/